

地下水調査業務 仕様書

第1条 適用範囲

本仕様書は、地下水調査業務委託に適用する。

本仕様書に明示なき一般事項は、福島県土木部制定「共通仕様書（業務委託編）」に基づく。

第2条 業務目的

既存の観測孔等を用いて、地下水の各種調査を行うことを目的とする。

第3条 業務の内容

業務内容は下記に示す各項目の内容とする。

1 被覆形態調査【1 km² 当たり】

調査区域内の水利用に関する水系、用水系統、地表の被覆形態（植生、裸地、水田、畑など）を土地利用図や空中写真判読による図化と現地踏査による確認を行う。

2 既存井戸の利用状況調査（水位・水質の測定含まず・資料整理含む）【1 ヲ所当たり】

調査区域内の井戸の有無を確認し、井戸構造を現地計測によって把握し、使用状況について所有者から聞き取りにより調査する。水位、水質の測定は含まないものとする。
結果は、井戸調査表に取りまとめる。

3 湧水調査【1 ヲ所・1 回当たり】

調査区域内の湧水の分布及び用途調査、ならびに湧水量の観測を行う。湧水規模が大きい場合は、土のうを使用して湧水を1 ヲ所に集約して湧水量の観測を行う。

4 自記水位計による水位観測、資料整理

4-1 設置・撤去【1 基当たり】

既設井戸又は観測孔に自記水位計を設置し、用途完了後、自記水位計を撤去する。

4-2 観測【1 基・月当たり】

既設井戸又は観測孔に設置した自記水位計にて、長期にわたり連続して水位観測を行う。1 回／月の点検と記録用紙の交換やデータ回収を行う。

4-3 資料整理【1 基・月当たり】

観測資料の取りまとめ、水位変動図作成および考察を行う業務に適用する。

5 携帯用触針式水位計による水位観測【1 ヲ所・1 回当たり】

既設井戸又は観測孔において、携帯用触針式水位計により水位観測を行う業務に適用する。
（データの整理を含む）

- 6 水質試験（水質分析費用は物価資料による）【1 検体当たり】
 沢水、湧水、井戸水について、観測孔等から検体を採取し、運搬・データ整理を行う。
 運搬は、調査箇所から水質検査を実施する機関への引き渡しまでを行う。
- 7 水温観測【1 ヲ所・1 回当たり】
 井戸水、観測孔の水温を水温計により観測する。
- 8 流向・流速観測【1 ヲ所・1 回当たり】
 測定機器により孔内の流向・流速を測定する。
- 9 濁度測定【1 ヲ所・1 回当たり】
 携帯式濁度計を用いて現地測定する。
- 10 揚水試験【1 ヲ所・1 回当たり】
 揚水ポンプ、三角堰を用い、段階式揚水試験、連続揚水試験、回復試験を行う。
- 11 簡易揚水試験【1 ヲ所・1 回当たり】
 ポリバケツ、ストップウォッチを用い、一定量の水を汲み上げるのに要する時間から揚水量を測定する。
- 12 観測孔設置・撤去（φ86mm ボーリング内に設置）【1 m 当たり】
 別途計上のボーリング孔内に、保孔管（V P 管 φ50mm）を設置し、孔内の洗浄を行う。

第4条 成果物

- （1）調査・試験報告書（電子成果物データ1部）
- （2）その他監督員の指示するもの（電子成果物データ1部）

第5条 打合せ

業務に関する打合せ記録簿の記録は受注者が行うものとし、相互に確認しなければならない。

なお、打合せ回数は3回を標準とし、必要に応じて打合せ回数を増減する。また、業務着手時、中間打合せ時及び完了時には主任技術者が出席するものとする。